

第4回 芽室町地球温暖化防止実行計画策定委員会 議事録

日時 令和6年3月26日(火) 14時00分～15時30分

場所 芽室町役場 2階 会議室7

○会議次第

1 開会

齋藤 和也 環境土木課長参事

2 議事

(1) 協議事項

芽室町地球温暖化防止実行計画(区域施策編)の策定について

3 委員長答申

4 その他

5 閉会

○出席委員(敬称略) 14名

梅津 一孝、小泉 怜児、川合 拓男、小澤 裕子、小寺 典子、梅森 孝明、
菊池 文夫、関根 和明、櫻田 勝也、遠藤 壮介、青木 昇、片原 隆介、
千葉 得功、井上 貴明

○欠席委員(敬称略) 6名

須藤 昌彦、山田 朝常、横田 聡、鈴木 剛、小林 覺、中村 満

○アドバイザー機関出席者(敬称略)

環境省北海道地方環境事務所 地域脱炭素創生室 山本 諭(オンライン参加)
北海道十勝総合振興局 保健環境部環境生活課 滝下 麻耶
地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 鈴木 啓明

○関係機関出席者

株式会社ズコーシャ(調査業務受託者)
営業部次長 徳岡 真
総合科学研究所次長 横堀 循

○傍聴人

1人 (十勝毎日新聞社 芳野 都馬)

○町側出席者

【事務局】

齋藤 和也 環境土木課参事

中村 勢太 環境土木課生活環境係主事

○会議要旨

2 議事 (14時00分～15時00分)

(1) 協議事項

芽室町地球温暖化防止実行計画 (区域施策編) の策定について

【資料説明】

14時00分～14時30分 事務局より議案資料について説明

【質疑応答】

アドバイザー：家庭部門での削減取り組みの結果、1世帯当たり1.2tの削減につながるということだが、この1.2tという削減量がイメージしにくいかもしれないと感じる。家庭の中で排出される二酸化炭素量のうち、どのくらいの割合を占める量なのか、町全体の排出目標のうち、どれくらいの貢献量なのか、表現方法を工夫できないか。

事務局：資料3ページ目「各種取り組みによるCO²削減量見込量」のなかに、家庭部門での取り組みによる削減量も含まれてはいるが、家庭での取り組みに特化して見える状態ではない。資料12ページからは、家庭での取り組みを紹介しているが、年間の節約金額と削減量がわかるようになっている。今後周知を行っていく段階で説明方法を工夫していきたい。

アドバイザー：数量が実感できるよう工夫していただきたい。

アドバイザー：町民・事業者の意見を組み込みつつ計画を策定されたものと思うが、どのように意見が組み込まれているのかが分かりにくいのではないかと思う。

事務局：町民・事業者アンケートの結果を広報誌で周知しながら進めてきた。

アドバイザー：アンケートを回答した方が、意見がどのように反映されているのかが分かりやすいような表現にしてもらえればと思う。

事務局：承知した。

- 委員**：2030年までの削減目標である48%というのは、いつ決まったのか。
- 事務局**：第3回までの策定委員会では決まらなかったため、事務局で検討することになった経緯がある。その上で、北海道地球温暖化防止実行計画や、役場が事業として削減に取り組む芽室町地球温暖化防止実行計画（事務事業編）との整合をとり、2030年までの削減目標を48%としたところ。また、国の目標である46%以上の削減を目指すという意味合いもある。
- 委員**：当委員会では48%よりも低い目標設定でも良いのではという意見も出されていたと思う。商工会の立場から、高い目標を達成するために設備投資等に投資しなければならない状況になれば、事業の停滞を招くことを危惧している。事業者を説得していく材料は何かあるか。
- 事務局**：削減目標のハードルが高いというのは、前回の策定委員会で御意見をいただいていたところ。目標を達成していくに当たっては、事業者だけではなく、町全体として取り組んでいくものであり、各所での取り組みを加味しながら進めていく。事業者だけに町全体の48%を削減してもらうということではない。また、国や道の動きなども変わっていくと思う、そういった将来性も含めて48%削減という目標設定にした。
- 委員**：見る人によってはハードルが高く感じる。今のような説明が伝わりやすいようにしてほしい。
- 委員**：脱炭素シナリオの中で、廃棄物の削減・リサイクルの推進とあるが、芽室町の廃棄物はくりりんセンターで処理されていると思う。くりりんセンターの所在地は帯広だが、排出量のカウントはどうなるのか。
- 事務局**：御推察のとおり、芽室町の廃棄物はくりりんセンターに搬入しているが、資料2ページ目「二酸化炭素排出量の推計」のグラフ中、廃棄物部門にて排出量を示している。芽室町一般廃棄物処理基本計画に基づく取り組みや、国のリサイクル推進の動きにより廃棄物削減が進むと、廃棄物部門の排出量に反映されていく。もともと芽室町では、廃棄物の削減は課題となっており、脱炭素と絡めて課題解決が進むことも期待している。
- 委員**：ペットボトルをリサイクルではなく、燃焼効率を高めるための着火剤のような扱いにしているところもあると聞いた。リサイクルがどのように実施されているのか、わかりやすく示してもらえると良いと思う。
- 事務局**：町民の皆さんの中にも疑問に持たれている方もいらっしゃる。わかりやすくお示しできるようにする。
- 委員**：2050年ゼロカーボンを大きなゴール、2030年までに48%削減を中間目標とすると、2030年から2050年までは20年あるが、今から取り組みを進め

て2030年までに48%削減は期間短く、ハードルが高い。いかに町民に周知を行っていきけるかが課題。広報誌に掲載されていても興味がなければ見ない。駅や庁舎などで取組みや成果が見えるようなアイデアが必要ではないか。成果が見えると励みになると思う。

事務局：成果が見える手法は考えていきたい。庁舎のデジタルサイネージへの掲示や、SNSを活用した情報発信などの手法が考えられるが、検討しながら進めていきたい。

委員：学校でも環境教育を実施していくとのことだが、とても大事だと思う。子どもから家族への波及も影響が大きい。子どもに響くような教育に絡めた取組みを進めることが、ゼロカーボン推進の弾みになると思う。

事務局：子どもへの教育が大事だという御意見は正にそのとおりのと思う。現在学校ではSDGsに関する教育枠があるため、そちらと連動できないか働きかけているところ。

委員：2030年までに公用車を100%EV導入するとあるが、公用車とはどこまでのことを指しているのか。すべての公用車をEVにすることは疑問である。

事務局：町としては、EV化の対象はバスや除雪車など特殊車両を除く普通自動車と考えている。

委員：大規模な停電時など、1日や2日で電気が復旧するとは限らない。そういったときに公用車が充電できず動かない可能性があるのはリスクが大きい。

事務局：公用車をすべてEV化することのリスクは承知している。災害時の現地確認等を行う車両などは、電気だけでなくガソリンも併用できるPHEV車とするなど、業態を考慮して車種の選定をしていく。

3 委員長答申（15時00分～15時03分）

【答申書受け渡し】

梅津一孝委員長より、手島旭芽室町長へ答申書を手交し、受理された。
その後、委員・アドバイザー各位より感想等をいただく。

4 その他 特になし

5 閉会

15時30分 閉会